

・生物多様性の観点から持続可能な地域づくりを更に進めていくために

本ビジョンの策定にあたり、ビジョンに示された考え方や目標を普及するとともに、その実践の第一歩として、平成 22 年（2010 年）3 月 6 日にシンポジウム「伊勢湾 森と海の未来」を開催した。

同シンポジウムでは、ビジョンの基礎となっている「社会的共通資本」の考え方について、宇沢弘文 東京大学名誉教授（日本学士院会員）より基調講演をいただいた。

パネルディスカッション「流域の人と自然がつながるために」では、伊勢・三河湾流域における生物多様性保全と持続可能な利用に向けて既に始まっている取組として、海については亀井浩次氏から藤前干潟を守る会による干潟保全の取組、森については丹羽健司氏から矢作川水系森林ボランティア協議会等による森の健康診断や山里の聞き書き等の取組について紹介があった。また、九州大学大学院の清野聡子准教授からは、これらの活動が伊勢・三河湾流域で育まれた「地域の知恵」に根ざしたものであるとの指摘があった。そして、コーディネーター中日新聞岐阜支社長片田知行氏から、これらの議論をまとめたシンポジウム宣言案が発表され、満場一致で採択された。

シンポジウム宣言は、本ビジョンで提示された伊勢・三河湾流域の土地の履歴、現状と課題や概念と目標を凝縮した内容となっており、当該宣言の採択により、伊勢・三河湾流域の多様な生き物を社会共通の財産と捉え、それらと共存しながら豊かな営みを続けてきた地域づくりの知恵を見直し、生物多様性保全に向けた新たな取組のきっかけを提案することとなった。

今後、伊勢・三河湾生物多様性が保全再生され、持続可能な地域となるために、森、里、川、海に係わる人々がより一層連携、協働し、活動を広げ、本ビジョンを実践することが重要である。

シンポジウム「伊勢湾 森と海の未来」

日 時：平成 22 年 3 月 6 日（土） 13：00～16：15

場 所：愛知県産業労働センター ウィンクあいち 大ホール

主 催：環境省中部地方環境事務所

共 催：中日新聞社

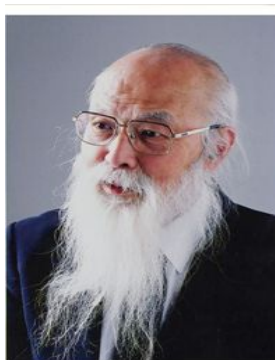
協 賛：カゴメ株式会社、NEXCO 中日本、ユニー株式会社

【プログラム】

(1) 開会挨拶 (13：00～13：10)

(2) 基調講演 (13：10～14：10)

「社会的共通資本と生物多様性」 東京大学名誉教授 日本学士院会員 宇沢弘文 先生



宇沢 弘文

1928 年生まれ 1951 年 東京大学理学部数学科卒業

1956 年からスタンフォード大学経済学部助教授、カリフォルニア大学経済学部助教授、シカゴ大学経済学部教授を経て、1969 年より東京大学経済学部教授。現在、東京大学名誉教授、文化功労者、日本学士院会員、米国科学アカデミー客員会員。1997 年文化勲章受章、2009 年ブループラネット賞受賞。主な著書に「社会的共通資本」、「地球温暖化を考える」、「『豊かな社会』の貧しさ」(岩波書店)、「最適都市を考える」(東京大学出版)など多数。

(3) パネルディスカッション (14：25～16：00)

「流域の人と自然がつながるために」

・コーディネーター：片田 知行 (中日新聞 岐阜支社長)

・パネラー：清野 聡子 (九州大学大学院)

亀井 浩次 (藤前干潟を守る会)

丹羽 健司 (矢作川水系森林ボランティア協議会)

海の人、山の人



片田 知行



清野 聡子



亀井 浩次



丹羽 健司

(4) 協賛者提供プレゼントの抽せん会 (16：00～16：15)

【同時開催 パネル展示】

シンポジウム会場のホワイエにて、行政機関、各流域・水系の活動団体などによる生物多様性保全と持続可能な利用に関する取組のパネル展示を行った。

シンポジウム宣言

伊勢・三河湾流域において、私たちは多様な生物とその生息環境から多くの恵みを受享受して、暮らし、働き、学んでいることから、この流域を「生命流域」と呼ぶことができます。生命流域の生物多様性と生息環境は、わたしたちの命と次世代を育む社会的共通資本の重要な構成要素の一つです。

過去 50 年間の私たちの急激で行き過ぎた経済社会活動により、快適で便利な生活が出来るようになった反面、森、里、川、海への人為的負荷が増加し、生物多様性と生息環境に危機が迫っています。

この現状を真摯に反省し、生命流域において、クジラが伊勢・三河湾に回遊し、里海ではアサリがわき、アユが川をのぼり、トンボやチョウが里山を舞い、森には様々な鳥がさえずり、そして、将来世代が真に豊かな生活を営めるように、永年の蓄積と経験に支えられた「地域の知恵」も活かしつつ、私たちが生物多様性と生息環境を保全・再生し、賢明な利用を実現していくことが必要です。

生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）の開催を契機に、伊勢・三河湾流域の生物多様性及び生息環境の保全・再生と賢明な利用をめざし、森の人、里の人、川の人、海の人がそれぞれの立場を超えて、つながり、協働し、活動を広げていくため、以下の宣言を行います。

- 1 伊勢・三河湾流域の生物多様性について考えるための「場」に参加し、大きな「輪」をつくっていきます
- 2 伊勢・三河湾流域の再生に向けて、それぞれの場で行動します
- 3 伊勢・三河湾流域の生物多様性保全と再生のために、よりよい仕組みをつくります

平成 22 年 3 月 6 日
「伊勢湾 森と海の未来」シンポジウム参加者一同

生物多様性を支える市民・地域による戦略的地域づくりビジョン

平成 22 年 3 月

環境省 中部地方環境事務所
株式会社スペースビジョン研究所

本報告書（表紙を除く）は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料『Aランク』のみを用いて作成しています。